

山口情報芸術センター [YCAM] ワークショップ

YCAM + カイル・マクドナルド

私はネットでできている？

2021年1月30日(土) 14:00～16:00 + 2月6日(土) 10:00～13:00

または1月30日(土) 14:00～16:00 + 2月7日(日) 10:00～13:00 ※2日間通し

インターネット(ビデオ会議システム)

インターネットが映し出すあなたの姿とは？

ワークショップ参加者の体験から、作品制作を目指すプロジェクトが始動！

山口情報芸術センター [YCAM] では、研究開発プロジェクト「鎖国 [Walled Garden] プロジェクト」の一環として、インターネットにおける個人情報の扱われ方について考えるワークショップ「私はネットでできている？」を開催します。

ネットワーク技術の発達に伴い、コミュニケーションの速度は大きく向上し、生活やビジネスに利便性がもたらされました。しかし、利便性の追求は時に個人のプライバシーの保護と対立し、また真偽が掴めない情報が氾濫するなど、個人と情報を巡るこれまでにない問題が顕在化しています。このワークショップでは、参加者はゲーム型のアクティビティをおこなうことで、インターネットに支えられた自身の日常を振り返ります。これにより、今後求められるテクノロジーやコミュニケーションのあり方について意見を交わすとともに、今日の情報化社会についての理解を深めていきます。

インターネットがライフラインのひとつに位置付けられる現代において、多くの人々が違和感を感じながらも、看過してしまいがちな個人情報の活用とそれに潜むリスクについて、目を向ける機会となるでしょう。ぜひこの機会にご参加ください。



参考図版：ローレン・マッカーシー+カイル・マクドナルド《Social Soul》

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

[お問い合わせ]

山口情報芸術センター [YCAM] 学芸普及課

〒753-0075 山口県山口市巾着町7-7

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 メールアドレス: press@ycam.jp ウェブサイト: www.ycam.jp

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

山口情報芸術センター
Yamaguchi Center for Arts and Media

情報化による利便性と脅威の狭間で揺れ動く私たちの日常生活



これまで実施した「R&Dプロジェクト」の1つ「Reactor for Awareness in Motion (RAM)」
撮影：丸尾隆一（YCAM）

YCAMでは2003年の開館以来、展覧会や公演など多種多様な事業を展開してきました。特に近年は、「R&D（研究開発：Research & Development）プロジェクト」と呼ばれる形態を中心に事業を実施しています。プロジェクトのテーマは多種多様ですが、いずれもYCAMの内部に設置された研究開発チーム「YCAMインターラボ」が市民や各分野の専門家たちと積極的にコラボレーションをおこないながら、調査や実験からアウトプットまで、総合的かつ長期的な活動を展開しています。

今年度からスタートする、研究開発プロジェクト「鎖国[Walled Garden]プロジェクト」は、ネットワーク技術が高度化した現代におけるコミュニケーションをテーマにしています。スマートフォンの登場や、SNSや電子マネーの普及などにより、社会のあらゆる局面で情報化が進み、私たちの生活はより便利なものになりました。しかしそれと引き換えに、企業や政府による個人情報収集、SNSを通じたフェイクニュースの拡散など、私たちの生活は見えない脅威に脅かされることにもなりました。このプロジェクトでは、コラボレーターでアーティスト／プログラマーのカイル・マクドナルド、アドバイザーでジャーナリストのスリヤ・マトゥとともにリサーチを進め、インターネットにおける個人情報の扱われ方について考えるワークショップの開発、そしてワークショップを起点とした作品制作を3年に渡って展開していく予定です。その最初の成果物が、今回開催するワークショップ「私はネットでできている？」です。

■ カイル・マクドナルド

コードを用いて作品を制作するアーティスト。「openFrameworks」のようなアートとエンジニアリングのオープンソース・ツールキットのコントリビューターであり、アーティストたちが新しいアルゴリズムを創造的に利用できるようにするツールを開発している。現在はニューヨーク大学ITPの非常勤教授を務めるほか、F.A.T. Labのメンバー、openFrameworksのコミュニティマネージャーとしても活動している。また過去にはカーネギーメロン大学STUDIO for Creative Inquiryに滞在し、作品制作をおこなった。作品は、山口情報芸術センター[YCAM]のほか、NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]、アルス・エレクトロニカ、Sonar/OFFF、Eyebeam、Anyang Public Art Project、Cinekidをはじめとする、世界各地の美術館やフェスティバルで展示されている。

■ スリヤ・マトゥ

アメリカ、ブルックリンを拠点に活動するリサーチジャーナリスト、アーティスト、エンジニアであり、アルゴリズムシステムが社会のシステムバイアスや不平等を永続させる方法を研究している。現在はThe Markupで調査データジャーナリストとして勤務。以前はアメリカの非営利／独立系の報道機関「ProPublica」で寄稿研究員を務め、アルゴリズムシステムがどのように人々を差別し、偏見を与えるかを明らかにするシリーズ「Machine Bias」に取り組んだ。Machine Biasは、Explanatory Journalism部門でピューリッツァー賞の最終選考に残る。また、「Gizmodo」のスペシャルプロジェクトデスクやMITメディアラボの客員研究員を務めた経歴がある。

これまでHaus der Kulturen der Welt／ベルリン、Museum of Art & Design／ニューヨーク、Whitney Museum／ニューヨーク、V&A Museum／ロンドン、Bitforms Gallery／ニューヨークなどで作品を発表してきた。

インターネットが知っている「私」を発見する



コラボレーターのカイル・マクドナルド（左）とスリヤ・マトゥ（右）

「私はネットでできている？」は、情報に対する私たちの従来の認識に変化を迫る現代の社会的状況を起点に、コミュニケーションやテクノロジーの未来を参加者とともに想像するワークショップです。

参加者はインターネットを利用する際、個人情報についてどれだけ意識してるかを思い起こすためのアンケートに答えたのち、いくつかのアクティビティを体験します。これらのアクティビティは、YCAMがコラボレーターと開発したアプリケーションやウェブサービスを通じておこなうもので、主要なオンライン・プラットフォーム上でプラットフォームを運営する企業が取得している個人情報や、インターネット上で流通する情報の中立性／客観性などについて考えるきっかけとなるものです。このアクティビティでの体験をもとに、参加者はほかの参加者と、これからのテクノロジーや、コミュニケーションのあり方について、議論を深めていきます。

個人情報を取り巻く問題は誰しものが当事者であるにもかかわらず、個人だけで対処できる問題ではありません。こうした問題について、気軽に意見を交わす環境をつくることで、情報化社会の未来を想像する機会となるでしょう。

ワークショップ終了後には、マクドナルドとマトゥによるトークセッションの映像をインターネット上に公開するほか、継続的にワークショップを実施する機会を設け、作品制作へとつなげていきます。

開催概要

YCAM+カイル・マクドナルド

私はネットでできている？

第1グループ：2021年1月30日（土）14:00～16:00

+ 2月6日（土）10:00～13:00

第2グループ：1月30日（土）14:00～16:00

+ 2月7日（日）10:00～13:00

※2日間通し

※両グループとも内容は同じです。ご都合に合わせてどちらかのグループを選択してください。

講師：カイル・マクドナルド、今野恵菜（YCAM）、山岡大地（YCAM）、原泉（YCAM）、三浦陽平（YCAM）、クラレンス・ン（YCAM）

会場：インターネット（ビデオ会議システム）

参加料：無料 ※要申込

定員：各グループ15名（申し込み多数の場合は抽選）

対象：高校生以上

用意する物：

- Zoom（ビデオ会議システム）を使用できるコンピューター（Windows 10以上、macOS 10.14以降）

主催：公益財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市、山口市教育委員会

助成：文化庁 文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）| 独立行政法人日本芸術文化振興会

共同開発：YCAM InterLab

企画制作：山口情報芸術センター [YCAM]

■ 申込方法

YCAMのウェブサイト内に用意された申込フォームからお申し込みください

ウェブサイト：

www.ycam.jp

申込締切日：12月28日まで